

# 第1章 関連する計画・施策

## 1. 市の上位・関連計画

### (1) 第2次かすみがうら市総合計画

・計画期間：平成29年（2017年）度～平成38年（2026年）度

・将来都市像：きらり輝く 湖と山 笑顔と活気のふれあい都市

～未来へ紡ぐ安心とやさしさの郷 かすみがうら～

・将来人口フレーム：平成38年の目標とする将来人口 39,314人

#### «土地利用構想図»



#### «まちづくりの基本理論»

1. 豊かな自然と地域産業が共存するまち
2. 日々の暮らしを守る快適で安全なまち
3. ともに支え成長する人財あふれる安心なまち

#### «まちづくりの基本目標»

1. 自然の恵みを享受できるまちづくり
2. 産業の振興で活力あふれるまちづくり
3. 安全で快適に暮らせるまちづくり
4. 健康で思いやりをもって暮らせるまちづくり
5. 未来を担う若者を育むまちづくり
6. 豊かな学びと創造のまちづくり
7. みんなでつくる連携と協働のまちづくり

## (2) かすみがうら市公共施設等マネジメント計画

- ・取組期間：平成 27 年（2015 年）度～平成 56 年（2044 年）度
- ・計画期間：第 1 期／平成 27 年（2015 年）度～平成 36 年（2024 年）度
- ・基本理念：「まちの魅力」や「市民生活の質」が高まる施設へ

«目指す姿» ◆ より多くの市民が快適に利用できる施設  
◆ 適正な規模と配置で整備されている施設  
◆ 効率的・効果的に管理運営されている施設

### «基本方針と取組方針»

#### 総量縮減と機能複合化

- ① 施設総量の縮減／② 機能複合化の推進

#### まちづくりとの連動

- ① 機能的なまちづくり／② サービス水準等の検討／③ 利用環境の向上／  
④ 広域的な連携

#### 施設保全の適正化

- ① 予防保全／② 安心安全の確保

#### 効率的・効果的な管理運営

- ① 適切な受益者負担／② 財源の確保／③ 財産の処分と活用／④ 民間活力の導入／  
⑤ 維持管理コストの縮減

### (3) かすみがうら市地域公共交通網形成計画

- ・計画期間：平成 28 年（2016 年）度～平成 32 年（2020 年）度
- ・本市が目指すべき将来像：
  - JR 神立駅周辺を中心とした拠点的土地利用の推進に合わせ、市内各所を結ぶ移動手段を確保した新しい公共交通体系の構築
  - 市民の移動ニーズ、高齢化や環境に配慮した、効率的で利便性が高い交通システムの構築

#### «公共交通の活性化及び再生に向けた取り組みの方向性»

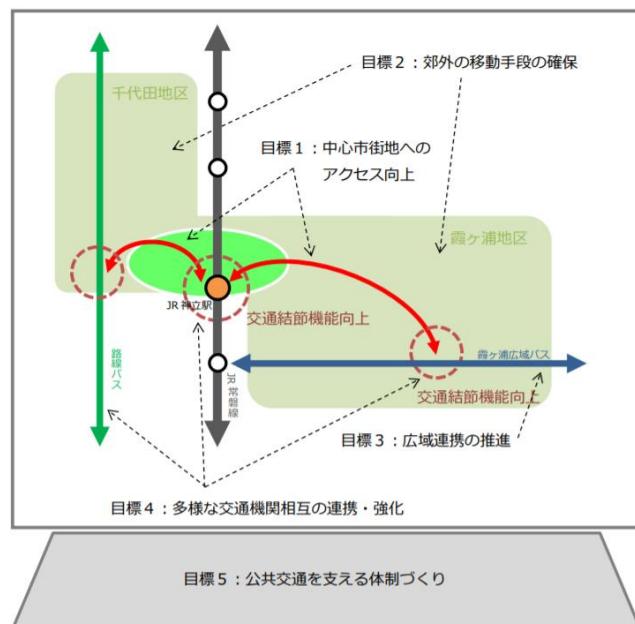
「市内のどこからでも公共交通で移動できる公共交通網」と、「鉄道・バス・デマンド交通の役割分担を明確にし、運行経費の節減と運行効率化」、このふたつが両立する公共交通体系の構築

#### «計画の目標»

- 目標 1：中心市街地へのアクセス向上
- 目標 2：郊外の移動手段の確保
- 目標 3：広域連携の推進
- 目標 4：多様な交通機関相互の連携・強化
- 目標 5：公共交通を支える体制づくり

#### «各計画目標のイメージ»

右図



## 2. 茨城県・周辺都市の上位・関連計画

### (1) 茨城県総合計画～「新しい茨城」への挑戦～

- ・**計画期間：平成30年（2018年）～令和3年（2021年）**
- ・**茨城の将来像：**『活力があり、県民が日本一幸せな県』
- ・**計画推進の基本姿勢：**
  - 1 県民とともに挑戦する「新しい茨城」づくり
  - 2 未来を展望した政策展開
  - 3 戰略的な行財政運営
  - 4 政策の効果検証・改善による目標実現へのチャレンジ
- ・**基本計画 基本的な考え方：**「新しい豊かさ」へのチャレンジ  
「新しい安心安全」へのチャレンジ  
「新しい人財育成」へのチャレンジ  
「新しい夢・希望」へのチャレンジ
- ・**かすみがうら市の地域区分：**県南地域・常磐線メトロフロントゾーン

#### «目指す将来像»

- 県南地域**は、世界有数の科学技術の集積や霞ヶ浦・利根川などの豊かな水源、縦横に走る鉄道や高速道路などの交通インフラのもと、活力ある産業と豊かな自然が共生する潤いのある都市空間を形成しています。
- 常磐線メトロフロントゾーン**は、東京圏との近接性を活かし、鉄道や高速道路によるネットワークの強化を図りながら、自然と都市が調和した魅力的な生活環境を形成しています。

#### «地域づくりの取組み» ※関連部分を抜粋

- 水稻やレンコン、なし、柿、栗といった県南各地域の特色ある農産物を活かし、ブランド力強化や6次産業化等による付加価値向上に取り組むとともに、農業生産基盤の整備と併せて担い手への農地の集積・集約化を進め、生産性の向上を図ります。
- 筑波山や霞ヶ浦などの自然やアーカスプロジェクト等の芸術、日本一のサイクリング環境、地域の食や文化などの優れた観光資源を活用し、国内外からの誘客を促進するとともに、世界湖沼会議やG20貿易・デジタル経済大臣会合を契機としたMICE誘致等に取り組みます。

#### «広域的な地域づくり»

##### 1 観光振興による地域の活性化

**県南地域**…筑波山や霞ヶ浦などの豊かな自然環境、筑波研究学園都市の科学技術のほか、外国人に人気の牛久大仏、フラワーパークなど、多彩な地域資源を活かした交流の促進や、つくば霞ヶ浦りんりんロードでのサイクリングをはじめとしたスポーツ体験型観光の推進に取り組み、魅力ある観光・交流空間の形成を図ります。

##### 2 霞ヶ浦と共生する地域づくり

**霞ヶ浦の将来像**…『霞ヶ浦とともに生きる』

**基本方針**…基本方針1：自然豊かで安全・快適な霞ヶ浦の創造

基本方針2：人と霞ヶ浦の共生

基本方針3：愛され、親しまれる霞ヶ浦の創造

## (2) 土浦・阿見都市計画区域マスタープラン

- ・告示日：平成 28 年（2016 年）5 月 16 日
- ・名称：土浦・阿見都市計画区域
- ・範囲：土浦市及び阿見町の全域、かすみがうら市の一部

### «都市づくりの基本理念» ※関連部分を抜粋

- 土浦地区については、業務核都市として、商業、業務、文化などの機能の一層の整備を図るとともに、霞ヶ浦など優れた自然環境・景観を保全し、潤いのある居住環境を有する職住近接型のコンパクトな都市を目指す。
- その他の地区については、業務核都市と連携して、その機能を補完するとともに、豊かな自然環境と調和した居住環境の整備を図って、一体的な発展を目指す。

### «地域ごとの市街地像» ※関連部分を抜粋

#### 神立市街地地域

本区域の北の玄関口である JR 神立駅周辺は、にぎわいと魅力のある都市拠点の形成を目指して、市街地開発事業や道路など都市施設の整備、駅の橋上化などを進めるとともに、商業・業務など都市機能の集積を進める。

また、土浦・千代田工業団地などの既に工業機能が集積する地区については、周辺の環境との調和を図りつつ、良好な生産環境の維持に努める。

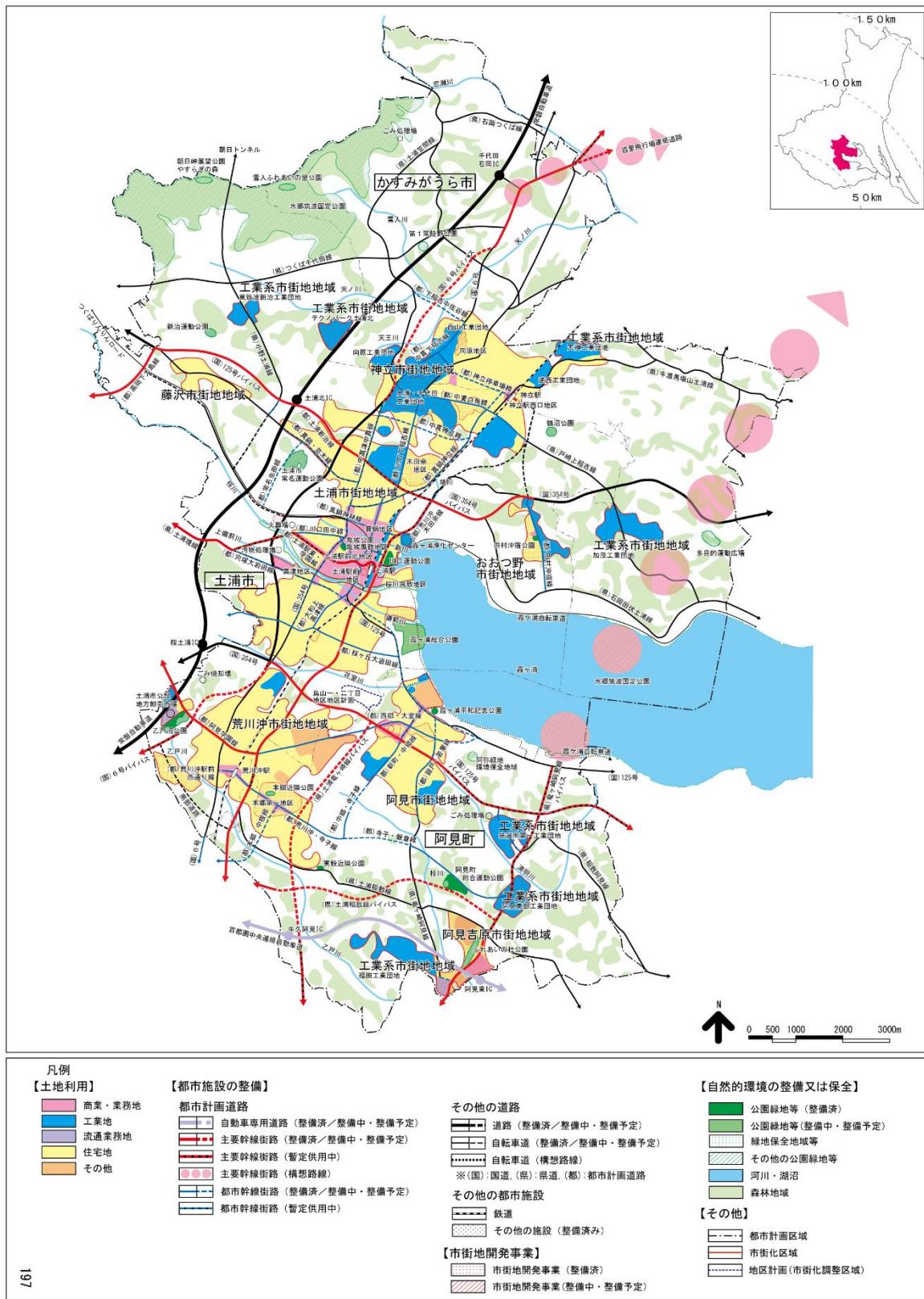
その他の地区においては、既存の道路網を活用しながら下水道など適正な都市施設の整備・充実を図り、居住環境の向上に努める。

#### 工業系市街地地域

土浦市のテクノパーク土浦北、東筑波新治工業団地、阿見町の筑波南第一工業団地、福田工業団地、阿見東部工業団地については、筑波研究学園都市や、常磐自動車道、首都圏中央連絡自動車道などの交通基盤を活かし、周辺の自然環境や居住環境との調和を図りつつ、先端技術産業等の集積を図る。

また、かすみがうら市の加茂工業団地については、道路や下水道などの都市施設整備を推進し、良好な生産環境の維持・向上を図る。

## ■土浦・阿見都市計画区域マスタープラン 付図



### (3) 土浦市立地適正化計画

- ・計画期間：平成 29 年（2017 年）度～平成 45 年（2033 年）度
- ・JR 神立駅周辺地区の位置づけ：《都市拠点》

«都市機能誘導区域及び居住誘導区域»  
右図

«JR 神立駅都市機能誘導区域の誘導施設»

- 支所
- 地域包括支援センター
- 児童館、子育て支援施設
- 食品スーパー等、ドラッグストア、ホームセンター
- 一般病院
- 銀行・信用金庫

